

# 短歌 技法①

年 組 名前 ( )

短歌に使われる①～⑩の技法を意味・例を参考にして書き入れなさい。

例

得点

10点×10 / 100

⑩

⑨

⑧

⑦

⑥

⑤

④

③

②

①

**反復法**

↓ 同じ言葉を繰り返すことで、強調したり、リズム感を生み出す。これ

**字余り**

↓ 基本の音数よりも多くする。

**対句**

↓ 似た構成の言葉を並べ、リズムをつくる。

**擬人法**

↓ 人でないものを人に比べて表現する技法。た

**体言止め**

↓ 文の最後を体言で終わらせる。そこで、感動をわめく。

**五・七・五**

↓ 短歌の基本形式。三十音をこの順に並べる。

**字足らず**

↓ 基本の音数よりも少なくする。

**直喻**

↓ 「とえるときにはどうに」「ようだ」など用いる。

**倒置法**

↓ 語順を逆にして意味を強める。

**隠喻**

↓ たとえるときに「ようだ」「ようだ」などを用いない。

意味

②①ゆつくりと ゆつくりと  
右に右に右に 右に大地がどこよめく(八音)が  
結句へ最期の句)だとすると、  
七音なので一字余る。①山は大きく、人は小さい。  
②青い空、白い雲①空がほどよめく  
大地がほどよめく②①青い  
秋の夕暮れ  
ハンカチ五句三十一音が基本  
始まりが「初句」(しょく)  
終わりが「結句」(けく)雲のようだ(六音)が  
結句へ最期の句)だとすると、  
七音なので一字足りないと、②①目覚めるよう  
雲のようだ  
に

勉強する、国語を。

ガラスの心

## 短歌 技法②

年 組 名前 ( )

短歌に使われる技法と、意味の組み合わせが正しくなるよう  
カツコにアヘコを書き入れなさい。

コ 五・七・五	ケ 隱喻	ク 字足らず	キ 直喻	カ 体言止め	オ 反復法	エ 字余り	ウ 対句	イ 擬人法	ア 倒置法
( カ )	( ア )	( ク )	( キ )	( イ )	( オ )	( コ )	( ケ )	( ウ )	
文の最期を体言で終わらせるなどで、 感動を強める。	語順を逆にして意味を強める。	基本の音数より少なくする。	人でないものを人にたとえて表現する技法。	「たとえるとき」「「ようだ」など用いる。」	基本の音数よりも多くする。	短歌の基本形式。 三十一音をこの順に並べる。	「たとえるときに「ようだ」など用いない。」	似た構成の言葉を並べ、リズムをつくる。	

得点 / 100



## 短歌 技法③

年 組 名前( )

短歌に使われる技法と、例の組み合わせが正しくなるよう  
カツコにアヘコを書き入れなさい。

得点 / 100

例

( キ ) まるで雲のようだ。

( エ ) 結句（最期の句）を8音にする。

( ウ ) 太陽が吠える。

( オ ) カバンに入れる、教科書を。

( ク ) 走る、走る、走る。

( カ ) 三十一音が短歌の基本形式。

( キ ) 結句（最期の句）を6音にする。

( ケ ) ガラスの心

( ウ ) 夜は寒く、昼は暖かい。

コ  
五・七・五  
七・七・五

ケ  
隱喻

ク  
字足らず

キ  
直喻

カ  
体言止め

オ  
反復法

エ  
字余り

ウ  
対句

イ  
擬人法

ア  
倒置法

( ウ ) 夜は寒く、昼は暖かい。

( カ ) 忘れはしない夏の青空。

( キ ) 結句（最期の句）を6音にする。